

パレスチナ YWCA 活動報告 2010



YWCA of Palestine
Annual Report 2010

日本語版発行 日本 YWCA

もくじ

会長からのメッセージ	…4
総幹事からのメッセージ	…5
1. 2010 年のハイライト	…6
1.1 パレスチナ YWCA、ナデラ・シャルハウブ・ケボルキアン博士の東エルサレムに関する新しい研究『囚われの身、囚われた生活～非占領地パレスチナにおける、軍事占領、トラウマ、排除という暴力～』を発表	…6
1.2. YWCA 中東地域トレーニング会議(RTI)がエジプトで開催:安全で安心なコミュニティの創設	…7
2. 2010 年 プログラムのハイライト	…9
2.1 女性のための経済開発	…9
2.1.1 職業訓練プログラム(VTC):従来型から革新的かつ市場主導型プログラムへ	
2.1.2 ラマツラ職業訓練センター:会館の新築	
2.2 YWCA の生産プロジェクト	…11
3. 女性の権利とジェンダー平等の促進	… 12
3.1 ジェンダーの主流化と研修	… 12
3.2 女性の健康に関する啓発プログラム	… 12
3.3 パレスチナの女性の権利と経済参画プロジェクト	… 13
4. 若者のリーダーシップ養成と社会参画	… 14
5. 子どもたちの教育と認知教育	… 16
5.1 難民キャンプ内の YWCA 幼稚園	… 16
5.2 エルサレム 子どもセンター	… 17
6 国際舞台への参加およびアドボカシー	… 18
6.1 ディサイプル(十二使徒)女性総会:グリーンズボロ、アメリカ合衆国	… 18
6.2 FOKUS(女性と開発のためのフォーラム)女性と平和と安全に関するネットワーク会議および女性・平和・安全に関する国連安保理決議第 1325 号(SCR1325)10 周年記念週間: ボゴタ、コロンビア	… 18
6.3 コモン・グローバル・ミニストリー(共同世界宣教、CGM)年次理事会:アメリカ合衆国	… 19
6.4 パレスチナ YWCA 総幹事、サンフランシスコ地域 YWCA を訪問	… 19
7. パレスチナ YWCA および地域 YWCA 会長・総幹事	…20
8. 2010 年会計報告	…20

会長からのメッセージ

毎年さまざまな課題が私たちに与えられます。特に 2010 年はそれがはっきりなしに起こりました。この報告書では私たちが直面した政治的、社会的、経済的困難についてお伝えします。また、私たちが掲げた年間目標の成果や達成度もお分かりいただけると思います。

職員として、またボランティアとして、私たちは難題にぶつかり、多くの障害を克服してきました。多くの方々の真摯な働きはチームアプローチに活かされ、そこで学んだことはとても貴重で、専門家としての成長や進歩を促し続けてくれました。その中でYWCAが目指したのは安定性です。財政面の安定にはまだ少し遠いものの、パレスチナの若い女性のエンパワメントを目指して活動する団体であるという目標はしっかり根付かせています。

組織の運営管理面で言えば、細則をアップデートするためのあらゆる検証、調査がいよいよ終了し、パレスチナ YWCA を登録する作業も始まりました。ただし、占領下での生活を強いられている状況でものごとは簡単にはいきません。イスラエルは私たちに命令や規制を押しつけてきますがそれはいつも私たちの繋がりを引き裂こうとするものに他なりません。どのような行動を起こすときにも、この引き裂こうとする彼らの罠に陥らぬように細心の注意を払い、十分な法律検証をしてものごとを決めなくてはならないのです。国際法は、侵略者の利に合うように解釈され、無視されることもあります。たとえ正義に反していても。

職員の勤務評価や給与体系、内部手続き、地域 YWCA とナショナル YWCA との関係や意思決定レベルに影響する権威体系といったことに関連するすべての文書を見直すことも始めました。これらの文書は 2011 年には完成し、承認される見込みです。

すべての事業の核となるのは私たちの会員体制です。若い会員層を拡大するという目的を掲げてそのために必要なステップを積極的に進めてきました。可能性ははっきりと見え、多くの若い人たちを YWCA 会員としてさまざまな活動に参加するように誘うことができたことを誇りに思います。

何代にもわたってパレスチナの女性たちは YWCA という偉大な組織に出会い、その多くが YWCA の歴史に大きな足跡を残し、私たちに何かを語り続けています。100 年以上にわたって YWCA が存在すること、そしてそこを通過した何千人もの女性が、助け合いの灯を掲げ続けなさいと教えています。そしてこの地域がこれまでも増して必要とする改善に、より早く応えられるような組織に成長しなさいとも。

今年カイロでおこなわれた YWCA 中東地域トレーニング会議(RTI)では、共通の問題や、地域全体の改善に取り組むためには協力体制が欠かせないことが再確認されました。このような熱意で、地域全体のためになる共同のプログラムや活動が実現されることを期待しています。

今年私たちが掲げた目標を実現するために YWCA に惜しみない協力をしてくださったすべての職員、3つの地域 YWCA の運営委員およびパレスチナ YWCA 評議員の方々に心から感謝の意を表します。そして親愛なる協力団体と友人の皆様の変わらぬご支援と、私たちの使命へのご理解に深くお礼を申し上げます。



アブラ・ナシール
パレスチナ YWCA 会長

総幹事からのメッセージ



2010 年度活動報告書を発行するにあたり、中東地域が新しい時代に入りつつあるのを感じます。長期にわたる抑圧、不正、差別、腐敗に抗議の声をあげる目覚めの時代の到来です。注目すべきは、人々が自分たちの持つ影響力、現在を変革して未来を創る力、指導力などに気付き、傍観者であることをやめ行動し始めたことです。こうした非暴力改革運動の先頭にいるのは主に若い人たちです。彼らは未来に対するビジョンだけでなく、それを具体化しようとする強い意志も持っており、最後まで決して諦めません。パレスチナ人はもはや孤立していないと感じていますし、自分たちの問題は地域に共通する問題であると考えています。こうしたことが私たちの地域 YWCA やネットワークをより強力で意義あるものにしていきます。

女性と若者の運動体である YWCA の今後の活動、中でも果たすべき役割にこうしたことが影響するのは当然と言えるでしょう。私たちはコミュニティのまとめ役となって人々、特に女性たちに人権についての知識を広め、政治的状況や経済的状況が悪化する中でコミュニティを支援してその復元力と緊急対応力を高めなくてはなりません。

全世界がこの「目覚め」のスピードとプロセスに驚いています。私たちは女性が対等なパートナーとしてこのプロセスに加わり、強いリーダー、意思決定者、平和を創る人、起業家などとして活躍することを期待しています。

2010 年度活動報告書を皆様にお届けできることを誇りに思います。正しい方向に進んでいるのを確信し、より一層の努力を続ける覚悟です。今年度は 2007 年に着手した組織計画の成果が現れてきた年でもありました。私たちは、テーマ別に主要 4 分野にプログラムをまとめ、優先分野の目標達成に向けさまざまな方法を導入してきました。組織の運営管理と構造の面で、そしてプログラムの面で今年度は重要な移行の年でした。この 3 年間、資産活用と組織力向上に全力を挙げて取り組み、かなりの資金を投資し、念願のコミュニティ・プログラムを実施する場所を手に入れることができました。潜在的な利用者に手を差し伸べるアウトリーチ・プログラムの企画と実施に関しても大きな進展が見られました。また、これまでの経済開発プロジェクトの詳細な評価をおこない、2011 年には改良・拡充した新しいプログラムを開始できるようになりました。

2010 年は、女性団体および若者団体とのネットワーク構築に関しても特別な年でした。若い女性の安全な場を創るという目標は達成されましたが、引き続き女性の権利を求めて声をあげ、女性に対するすべての暴力や権利侵害を明らかにしていきます。そして、女性自らがより意識を高め、変革の担い手となることを願ってやみません。

ミラ・リゼック
パレスチナ YWCA 総幹事

1. 2010年のハイライト

1.1 パレスチナ YWCA、ナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士の東エルサレムに関する新しい研究『囚われの身、囚われた生活～非占領地パレスチナにおける、軍事占領、トラウマ、排除という暴力～』を発表

10月28日、パレスチナ YWCA は女性問題庁の後援の下、ナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士によって実施された『囚われの身、囚われた生活～非占領地パレスチナにおける、軍事占領、トラウマ、排除という暴力～』と題する最新の研究を発表しました。この研究はパレスチナ YWCA が委託し、ダン・チャーチ・エイド (DCA) が資金を提供しました。

発表の式典は、ラマツラにあるベスト・イースタン・ホテルでおこなわれ、市民団体、女性団体、パレスチナ政府および学術機関などから 65 名以上が出席しました。参加者は式典に引き続いておこなわれた討論でも積極的に発言し、東エルサレムで起きている事態への懸念を表明しました。

研究は、エルサレムにとって非常に重要な時期に完成したため、今日のエルサレムのパレスチナ人の苦悩と抗議に関する重要な文書として役立つでしょう。ナデラ博士は発表の中で、また研究全体を通して、軍の占領というパレスチナ人の日々の経験や生き残るための手段、またイスラエルがアラブ・エルサレムに課した精神的・社会的かつ経済的・政治的な策略や拘束にパレスチナ人が直面した際の対応策に関する事例を次々に示しました。研究はまた、イスラエルの都市政策、人口政策、経済的・政治的・社会的制約、政治的暴力などに直面したパレスチナ人が遭遇する主な苦難について明らかにしています。さらに研究では、今後の調査の方向性に関するいくつかの提案と、人権やフェミニズムに取り組む活動家や団体が検討すべき多くの政策提言をおこなっています。

この研究のために実施されたインタビューにて収集された率直な発言によると、エルサレム出身のパレスチナ人の若い男女は、自分たちの身体や日常生活の行動、活動が厳しい管理下にある、あるいは「囚われている」と強く感じていることを口にしています。ナデラ博士の理論分析では、これらの発言を理解するために「グローバル性とポスト植民地状態の理論化を求めています。これは「テロとの闘い」や「安全保障の正当化」

の発達、政治不安や産業不安、急増する暴力といったグローバルな影響力や情勢、そして国内避難民や地理的政治、家屋破壊といった地域レベルでの影響力が、占領下の東エルサレムにおけるパレスチナ人の日常生活の輪郭をどのように形成しているのか、そのことを完全に理解するために必要となります。



研究は、メディアなどから大きな注目を集めました。パレスチナ YWCA 総幹事のミラ・リゼックと研究チーム長のナデラ博士は 2010 年 10 月 29 日にパレスチナ・テレビで研究を紹介し、占領下や紛争下で生活している女性の状況を提示しました。

1.2 YWCA 中東地域トレーニング会議(RTI)がエジプトで開催:安全で安心なコミュニティの創設

パレスチナ YWCA は、YWCA 中東地域トレーニング会議(RTI)で非常に積極的な役割を果たしました。この RTI は世界 YWCA の協力を受け、エジプト YWCA が主催し、エジプトのカイロで 2010 年 5 月 27 日～6 月 1 日まで開催されました。

エジプト、ヨルダン、レバノン、パレスチナの YWCA から幅広い年代の 34 名の代表、18 名のオブザーバー、ボランティア、職員が参加しました。また、世界 YWCA 副会長リム・ナジャーを始め、世界 YWCA 総幹事ニャラザイ・グンボンズバンダを含むジュネーブからの代表団も出席しました。

パレスチナからは、地域 YWCA から 9 名の女性が参加しました。パレスチナ YWCA 総幹事ミラ・リゼック、パレスチナ YWCA 会長アブラ・ナシール、パレスチナ YWCA 副会長ハイファ・バラムキ、エルサレム YWCA 総幹事ハナン・ラフィディ・カマル、エリコ YWCA 会長エルマ・ダルビッシュ、ラマツラ YWCA 運営委員オリビア・カンダハ、ラマツラ YWCA プログラム担当で若手女性職員のファテン・フツサリー、パレスチナ YWCA 管理運営担当アシスタントで若手女性職員のマヤダ・タラジです。また、中東地域選出の若い女性として世界 YWCA の運営委員を務め、パレスチナ YWCA のメディア・アドボカシー・コーディネーターでもあるアーダ・アガザリアンも参加しました。

RTI は、加盟 YWCA 間で互いに経験や教訓を共有するという重要な役割を果たしました。そしてパレスチナ YWCA は、地域のための「資金調達と人材調達」戦略の発表で主導的な役割を担いました。この戦略は、資金調達の成功モデルとして総幹事によって作成・発表されました。また啓発のための手法として、オリーブの木キャンペーンと JAI(Joint Advocacy Initiative)プログラムも発表されました。RTI の結果確認された取り組むべき優先課題には、①女性の権利と家族、②各世代にわたる、かつ変革をもたらすリーダーシップとメンバーシップ、③女性に対する暴力と女性の健康、④平和と正義、が含まれます。また会期中、緊急食糧支援のためにガザに向かっていた船団へのイスラエル軍による攻撃に対し、合同でアクションアラート(緊急行動の呼びかけ)も発表しました。



5 日間の会合は、すべての参加者にとって実り多い経験となりました。専門家や YWCA 会員による素晴らしいスピーチ、プレゼンテーション、スキル向上のセッション、会議を離れた自由なおしゃべりなどを通して、希望と熱意に満ちた雰囲気生まれ、中東地域における女性の地位についてより明確に理解し、達成すべき目標を設定することにつながりました。

1.3 ニューヨークでの国連女性の地位委員会(CSW)

2010年には、国連女性の地位委員会(CSW)の第54会期があり、ニューヨーク市での2週間にわたる集中的な会合では、オリエンテーション、ワークショップ、文書起草、本会議などがおこなわれました。パレスチナYWCAからは、パレスチナYWCA総幹事ミラ・リゼック、パレスチナYWCA会長アブラ・ナシール、中東地域選出の若い女性として世界YWCA運営委員を務めるアーダ・アガザリアン(パレスチナYWCAメディア・アドボカシー・コーディネーター)が参加しました。

会期中、パレスチナYWCAは「平和構築のためのコミュニティ能力の強化」について発表をおこない、これには紛争当事国であるスーダンおよびスリランカのYWCAも参加しました。紛争時におけるYWCAの役割や戦略について、すべてのYWCAが情報を共有しました。ミラ・リゼックは、パレスチナYWCAに関する発表の中で、占領下での生活と仕事における課題、またその結果生じる女性に対する暴力について説明しました。リゼックは、パレスチナYWCAが、女性が仕事をverte生活向上させることができるような職業訓練、難民キャンプ内の幼稚園、青少年のための啓発およびリーダーシップ養成プログラムなどを提供して、「希望を絶やさない(Keeping Hope Alive)」ことに取り組んでいると強調しました。

最後に、ニャラザイ・ゲンボンズバンダ世界YWCA総幹事が、パネリストや参加者とともに、パレスチナYWCAのスローガンである「希望を絶やさない(Keeping Hope Alive)」と装飾されたろうそくを灯し、女性のたくましさ、そして女性が平和の架け橋として世界に光をもたらすことを表現しました。



2. 2010 年 プログラムのハイライト

2.1 女性のための経済開発

2.1.1 職業訓練プログラム(VTC): 従来型から革新的かつ市場主導型プログラムへ

2010 年は、職業訓練プログラムに対する考え方および計画に重要な変化が見られた年で、職業訓練を女性のための経済開発および雇用創出の手段として認識するようになりました。

こうして 2010 年に、YWCA は新たな VTC プログラムの実施に向けたプロセスを開始しました。この改善は、過去 2~3 年間に実施されてきたいくつかの外部市場評価調査と内部評価の結果に基づくもので、VTC 教育を以下の 3 段階に区分しました。

- ・ 第 1 段階: 9 ヶ月間の秘書課程。
- ・ 第 2 段階: 第 2 段階へ進んだ生徒は事務管理、会計、催事管理、その他の専門課程を専攻し、専門分野別の修了証書を取得。
- ・ 第 3 段階: 3 ヶ月間の強化コース。VTC の生徒だけでなく、既に働いており再教育や技能の向上を必要とする本職の人も対象。



VTC は各段階でモジュール制の導入を決め、制度が整い次第、生徒は基礎必修科目に加え、コースやテーマを選択できるようになります。この制度により VTC は従来型の教育課程からより継続性のある移行型の教育課程に変わり、生徒にはより高い教育を受け、より高賃金の仕事に就く機会が与えられます。

YWCA の公衆衛生プログラムは、イスラエル政府が認定する(卒業)証明書が得られないこと、卒業生の雇用率が低いことを理由として 2010 年に廃止されました。

以下の表はラマツラおよびエルサレムの VTC 卒業生および入学志望者の概要です。

YWCA	卒業生数	入学志望者数
	2009-2010	2010-2011
ラマツラ	・49 名入学 ・47 名(女性 45 名、男性 2 名)が 2009-2010 年度秘書プログラムおよび事務管理プログラムを卒業	・2010-2011 新学校年度の事務管理プログラムは 50 名で開始
エルサレム	・77 名の女子学生が 2009-2010 学校年度を修了し、7 月に卒業 ・18 名が公衆衛生プログラムを卒業 ・59 名が秘書必修課程(副専攻は医療および旅行関係秘書)を卒業	・2010-2011 新学校年度の事務管理プログラムは 67 名で開始

主要寄付団体: ドイツ教会開発サービス(EED)、ブレッド・フォー・ザ・ワールド(世界のためのパン)、ノルウェー教職員組合、石油輸出国機構(OPEC)。これらの団体の協力により、上記すべてに改善を施すことができました。



2.1.2 ラマツラ職業訓練センター:会館の新築

2007 年末、YWCA はクウェートのアラブ経済・社会開発ファンド (AFSED) から、VTC が入る地域センター新築のための助成金を受けました。YWCA はこの助成金により、内装工事を残して建物の 2 階部分を完成させることができました。内装工事を完了し、大会議場を建設し、会議室の設備を整えるために、2010 年にはセーブ・ザ・チルドレンの技術職業教育訓練 (TVET) プログラムを通じて更なる資金を確保することができました。ラマツラ YWCA は、2009 年 / 2010 年に OPEC から VTC のための助成金を

受けました。これにより、教室の備品を整え、プログラム参加者や対象グループを増やすことが可能になります。2011 年中頃には、建設と内装工事の第一段階が完了する予定で、VTC はこの新しい多目的会館に移転します。会館には 3 つの大教室、コンピューター完備の教室、会議室、教職員室、食堂があります。古い建物は今後も青少年や子どもたちの活動に活用される予定です。

アイリーン・ヒン — ラマツラ YWCA ユース会員

「ラマツラ YWCA は、懸命に生きること、自分自身に投資すること、そして有意義で目的に溢れた力強い人生の送り方を学ぶことを後押ししてくれました。YWCA の教員や職員の力添えのおかげで、私は自信をはぐくみ、コミュニケーション・スキルを磨き、社会的なつながりを深め・広げ、リーダーシップを発揮し、目標と抱負を達成することができました。YWCA は教育や訓練を通して私に強さを与えてくれました。その強さが私の人生全般をより質の高い、自信に満ちたものにしてくれるでしょう。私に更に高い教育の機会を与え、昇進の階段の最下層から脱するのを助けてくれるでしょう。YWCA が私たちの国の女性たちに前進と成長の機会を与えていることに対し、私はこの先も感謝の気持ちを忘れません。私の周りの女性たちが、彼女たちの最も高い目標と仕事上の成功のために懸命に努力するよう、いつか私が彼女たちに刺激を与え、力づけることができるようになりたいと思っています」



アリーナ・アブウ・ガナム: 意欲に溢れた粘り強い母親 — エルサレム VTC

アリーナは 7 歳の娘タリーナの母親で、入学した当初は非常に恥ずかしがり屋でした。自分の能力を職業に就いて活かしたいという非常に大きな望みを持っており、自分の時間と将来に投資したいと考えていました。彼女は我慢強さと決して諦めないという才能を持っていました。授業中の注意力と集中力は際立っていました。キャリアを築くのに必要な素質を持っていたのです。私たちは、学力だけでなく思考力や判断力を伸ばす機会も与えました。そして、娘の模範になるという彼女の夢を実現する機会を与えました。批判的に考えること、思慮深く計画すること、賢く断ること、寛大な心で受け入れること、そして人間としての経験を積むことをエルサレム VTC で学びました。内気で臆病だったのが、研修を受けたことにより社会に踏み出すことができるようになりました。主婦が職を求めるのは慣習として禁じられていますが彼女はこれを無視し、東エルサレムで最大の病院の一つでボランティアをしました。よく働き意欲に溢れる女性には必ず仕事があると確信していたからです。

アリーナとタリーナの人生に良い影響を与えることができ非常に誇りに思います。私たちは使命を果たしたと感じました。



2.2 YWCA の生産(加工)プロジェクト

パレスチナ YWCA には 2 つの生産ユニットがあります。エリコ YWCA によって運営されているエリコ食品生産(加工)ユニットと、ジャラゾン難民キャンプセンターにある工芸品や刺繍の制作ユニットです。これらのプロジェクトは、女性に訓練と雇用機会を提供するとともに、収益を上げて YWCA を支援するために立ち上げられました。しかし、市場ニーズの変化と市場の閉鎖も相まって、YWCA はこれらのプロジェクトの背後にある使命を再検討する必要に迫られました。

ICCO(開発のためのキリスト教会の相互団体)の顧問によって実施された最近の組織評価では、上記のプロジェクトの二面性を指摘されました。このため YWCA は、利益を上げることその役割の範囲内に置くのか、あるいはプロジェクトは単に雇用創出のためのプログラムなのかを決定しなければなりません。新しい組織計画の方向性の中にこのプロジェクトを位置付けるためには、このプロジェクトの目的を「女性のための経済開発」という分野に当てはまるよう再定義する必要があります。

エリコ食品生産(加工)プロジェクトは拡大を続け、ラマツラ、エルサレム、ナザレ、ラムレから多くの個人・顧客が YWCA による生産物販売リストに加わりました。プロジェクトは大きな市場になる可能性があります、ビジネスとして公的な登録が必要であり、また、ビジネスとして運営する場合はプロジェクト全体として新しい制度の創設を必要とします。2011 年は、このプロジェクトを新たな段階へと導く最初の移行準備年となるでしょう。

2010 年、これらのプロジェクトはすべて内部で資金調達できており、第三者・機関など外部からの寄付による支援は受けていません。



3. 女性の権利とジェンダー平等の促進

これは、2010-2015年の組織計画に組み込まれた新しい分野です。このプログラムはパレスチナ YWCA や地域 YWCA のさまざまな研修、意識向上キャンペーン、研究活動、プロジェクトなどを支援するものです。この分野では以下の3つのプロジェクトを実施しました。

3.1 ジェンダーの主流化と研修

ナデラ・シャルホウブ・ケボルキアン博士による研究『軍の占領、トラウマ、排除という暴力：囚われた肉体と精神』は、このプロジェクトのもとで資金援助を受けました。この研究の他にもさまざまな取り組みを実施しました。



1. YWCA のすべての政策、プログラム、活動にジェンダー平等の視点を取り入れるために YWCA の組織力を強化。ジェンダー問題の専門家であるスヘイル・アゾウニを雇用して、YWCA 職員および運営委員にジェンダー平等に関する研修を実施しました。2010年10月11日と12日の2日間、ラマツラの赤新月社で19名のYWCA職員と運営委員が研修を受け、ジェンダー問題とエンパワメントの基本概念や意義、適用可能性について学びました。
2. 職業訓練プログラムの一環としてジェンダー教育を導入。2009/2010年度は77名が受講しました。このプログラムでは人権、ジェンダー平等、女性の人権に焦点を当てました。
3. エルサレム旧市街の女性50名(14歳～55歳)を対象に、ジェンダー平等に対する理解力を高め、知識を深める研修をおこないました。
4. エルサレム YWCA に女性資料センターを設立。建設には国連開発計画(UNDP)の支援を受けました。センターは2011年半ばに一般公開される予定で、ジェンダーに関する専門図書室があります。また女性に関するワークショップやフォーラムもおこなわれます。

このプロジェクトはダン・チャーチ・エイド(DCA)の支援を受けました。

3.2 女性の健康に関する啓発プログラム

このプログラムにエリコから参加したファトメ・グネイムは「健康に対する意識向上トレーニングを受けて健康が当たり前だと思い込んではいないことを学びました。しかし最も重要なのは、自分に影響を与える健康問題に関しては自分で決めること、そして自分の健康と幸福が懸念される時には発言しなくてはならないと学んだことでした。実に多くの新しい考え方、言葉、定義を知ることができました」と語りました。



このプログラムの目的は、社会から取り残された難民地区や農村部、特にヨルダン渓谷、ジャラゾン難民キャンプ、ラマツラ行政地区周辺の村に住む女性たちの健康に対する意識向上と予防策強化です。性感染症、貧血症、生殖に関する健

康、骨粗しょう症、HIV と AIDS、更年期、栄養、糖尿病、予防対策、血圧などさまざまなテーマについての取り組みがなされました。

ヨルダン渓谷:2010 年、25 歳～60 歳の女性 99 名がこのプログラムに参加しました。

ジャラゾン難民キャンプ:2010 年、18 歳～55 歳の女性 41 名がこのプログラムに参加しました。

3.3 パレスチナの女性の権利と経済参画プロジェクト

このプロジェクトはパレスチナ YWCA 事務所が直接運営に携わっており、Y グローバルを通して FOKUS(女性と開発のためのフォーラム)から資金援助を受けています。プロジェクトの目的は、YWCA 職員と運営委員の能力を強化して、それぞれが役割を理解し適切な組織運営と説明責任の基準に従って能率的に職務を遂行できるようにすることです。また、開発プロジェクトの計画、監視、報告、評価のレベルアップに向けてトレーニング、実践、コミュニティへの働きかけなどをおこない、人権に基づくアプローチを実践する団体としての知識とスキルの向上を図ることも重要です。

2010 年 11 月、5 日間にわたるプロジェクト・サイクル・マネジメント・トレーニングがマアーン開発センターのディレクター、サミ・カダーによっておこなわれました。YWCA 職員 14 名と運営委員 5 名が参加し、コミュニティのニーズ評価、プロジェクトの企画／企画書の書き方、モニタリング、評価、報告などを通してプロジェクト・サイクル・マネジメントの概念を学びました。

(※プロジェクト・サイクル・マネジメントとは、現状における問題を特定し、問題の原因を分析し、解決策を探り、実行計画を立案、実施、評価するという一連のサイクル)

プロジェクトでは、女性の人権擁護と「女性・平和・安全に関する国連安全保障理事会決議第 1325 号 (SR1325)」の実行を求めるロビー活動やアドボカシー活動に向けて、職員とコミュニティに対する研修にも重点を置いています。また特筆すべきは、このプロジェクトが「紛争国における YWCA の組織開発」(パレスチナ、スリランカ、スーダン YWCA が対象)と題された大規模な合同プログラムの一貫であり、Y グローバルおよび世界 YWCA と連携している点です。

4. 若者のリーダーシップ養成と社会参画

若い世代を YWCA や社会活動に巻き込むのはパレスチナ YWCA にとって大きな課題です。新たな計画やプログラムを実践していますが、若いメンバーはゆっくりとしか増えません。

下の表は、2010 年度におこなわれた若い世代向けの主な活動を示しています。

YWCA	活動	開催地
エルサレム		
	リーダーシップ養成	
	11 月～12 月の間、市民教育に関するワークショップを 3 回開催。 15 歳～18 歳の男女 52 名が参加(女子 36 名、男子 16 名)。	エルサレム行政地区
	10 月 14 日～11 月 11 日までの間、タイム・マネジメントとコミュニケーション・スキルについての研修を開催。 14 歳～17 歳の若者、平均 24 名(女子 16 名、男子 8 名)が対象。	エルサレム行政地区
	ジェンダー平等に関する研修を 8 月に開催。14 歳～18 歳の若者、平均 18 名(女子 13 名、男子 5 名)が対象。	エルサレム行政地区
	サマーキャンプ	
	女性のリーダーシップ・サマーキャンプを 7 月と 8 月に開催。 18 歳～24 歳の若い女性、平均 19 名が対象。	エルサレム YWCA
	文化的活動・その他の活動	
	ダブカ(アラブの伝統的な舞踊)のダンスグループ(女子 10 名、男子 8 名、計 18 名)が、さまざまな文化的・宗教的イベントに 3 月～12 月まで参加。	エルサレム YWCA
	年間を通して、アッコ、ヤッフオ、ハイファへの実地見学旅行を、若者のアイデンティティ強化プログラムの一環として企画。	
エリコ		
	リーダーシップ養成	
	リーダーシップ養成プログラムを 2 つの若者グループに実施。 グループ 1: エリコ・グループ。15 歳～17 歳の男女 22 名。 グループ 2: ニウエイメ・グループ。14 歳～18 歳の若者 35 名。	エリコ市およびニウエイメ村
	サマーキャンプ	
	「挑戦する世代」と題する若者向けサマーキャンプをエリコで開催。 14 歳～17 歳の男女 40 名が対象。	エリコ市の他にニウエイメ、エイン・アルスルタン、アクバット・ジャベル難民キャンプから参加。
ラマツラ		

	リーダーシップ養成	
	2010年8月にリーダーシップ養成プログラムを実施。18歳～24歳の若者20名が対象。	ラマツラ行政地区および周辺の村
	サマーキャンプ	
	子どもたちを対象にしたサマーキャンプ(「希望のキャンプ」)をジャラゾンセンターで開催。5名の若者がリーダーとして参加。	ジャラゾン難民キャンプ

これらのプログラムを通して、若者のボランティア活動に対する認識と関心が大きく高まりました。エルサレムの若者はオリーブ農家の収穫を手伝いました。また、ラマツラの若者はベツヘレムの孤児院への訪問を企画し、さまざまな楽しい活動を考案して子どもたちを楽しませました。エリコの若者は、国際高齢者デーに老人ホームを訪れ、ラマダーンの行事を実施しました。若いメンバーの中には医療機関でボランティアをして応急処置についてトレーニングを受け、その知識と経験を他のメンバーに伝えた者もいました。これら多くの若者リーダーは、今ではYWCAの子どもたちのサマーキャンプでもボランティアとして活躍しています。

スウェーデンYWCA/YMCAと米国メソジスト教会は、この分野において引き続き重要なパートナーです。

ハンナ・タムス、エルサレムYWCA会員

ハンナ・タムスは精力的で活動的な若者です。ダブカが大好きで、昨年からサマーキャンプでエルサレムYWCAの子どもたちにボランティアでダブカを教えています。彼はYWCAを「子どもたちの成長を助け、若者の才能を伸ばすパレスチナの重要な団体の一つ」と考えています。

ハンナは、YWCAがこのようなダンスを通じて子どもたちに文化や祖国の歴史を教える機会を与えてくれたことを嬉しく思っています。ダブカは子どもたちにとってパレスチナ人のアイデンティティを強化し、正しく理解するのを手助けするメッセージのようなものだとハンナは考えています。

リハム・ヒュサリ、ラマツラYWCAユース会員

「私は最近ラマツラYWCAのユースクラブに入りました。リーダーシップ養成プログラムに参加する機会があり、リーダーシップについての理解を深め、コミュニケーション・スキルを向上させました。これは私の人生の重要なターニング・ポイントでした。ベツヘレムの孤児院を訪問したこと、国際女性デーの活動を企画したことで、若者の活動の重要性と価値に気づきました。

YWCAのユース会員であることを光榮に思います。私と友人たちにフォーラムという場が与えられ、そのフォーラムを通じて私たちの考え、恐れ、抱負を表明し、市民生活に積極的に関与することができるのです」



アマニ・ジャマル・ヒュデイブ(16歳)、エリコのエイン・アルスルタン難民キャンプの青年

「YWCAのユース・リーダーシップ・プロジェクトに参加し、重要な問題に関するさまざまなテーマや研修を通じて、自分自身が何者であるかを理解し探究することができました。また、周辺コミュニティと交流し、色々な視点で考えようとの思いを強めました。このプロジェクトに参加して素晴らしい経験をしました。新しい友だちも

でき、チームワークや新しいスキルも学びました。

YWCA がこのような取り組みを継続し、若者を引き続き支援するよう望みます。とりわけ私たちを支え成長させようとしている団体が少ないエリコでの支援を望みます。私にとって YWCA は子どもたちを再び一つにし、彼らの活動的で幸せな生活を願う母親のような存在です」

5. 子どもたちの教育と認知教育

5.1 難民キャンプ内の YWCA 幼稚園

エルサレム YWCA が運営する子どもセンターのほか、エリコ YWCA はアクバット・ジャベル難民キャンプ内で、ラマツラ YWCA はジャラゾン難民キャンプ内で継続して幼稚園を運営しています。どちらの幼稚園にも「創造ひろば」というスペースが設けられ、ブロックやパズル、カード合わせなどの手法を使って園児たちの論理的思考を育てる、クリエイティブな教育方法が採用されています。

この手法はすべての年齢の子どもたちにも有効で、分析力や論理的思考力をつけるだけでなく、学びと発見のチャンスが平等にあると、指導にあたっている教員たちに好評です。

＜2010 年在園者数＞

- ・ ジャラゾン難民キャンプ内幼稚園： 4 歳～6 歳の園児 114 人
- ・ アクバット・ジャベル難民キャンプ内幼稚園： 3 歳～5 歳の園児 84 人

ジャラゾン難民キャンプでは、2010 年 7 月 3 日～20 日の間、子どもたちのサマーキャンプが実施されました。7 歳～12 歳の男女 68 人が集い、ダブカ、演劇、美術、工芸、その他のレ

クリエーションに参加しました。難民キャンプの施設はこれまでに引続き、キリスト教団グローバル・ミニストリーやクリスチャン・エイドなどにより支えられています。

＜ウサマ・アフメドくん＞

ジャラゾン難民キャンプに住む 5 歳のウサマ・アフメドくんの家は貧しく、良質の教育を受けさせたくても叶わない状況でした。そこで YWCA は月謝を免除し、ウサマくんを園に迎えました。初めのうちは人見知りで一人であることが多かったウサマくんですが、教員が他の園児たちとのゲームや遊びの輪に呼び込むことによって徐々に慣れていきました。ウサマくんはアルファベットの読み書きや、いくつかの英単語や文章を理解するなど、早い習得力があることもわかりました。そして今では、他の子どもたちとのグループワー



ウサマくん、YWCA ジャラゾンセンター幼稚園にて

クや遊びの輪に入ることもできるようになりました。「YWCA がうちの子に目を留めて、育てて下さっていることに感謝しています。ウサマは園へいくのがとても楽しみで、早起きして身仕度すると、私に早く行こうとせがむんですよ」とはウサマくんのお母さんの言葉です。

＜シャイマ・オマー・ムーシェド・アブジャラさん＞

今年6歳になるシャイマさんは、兄・3人の姉・両親との7人家族で、アクバット・ジャベル難民キャンプに住んでいます。シャイマさんは園では、絵が上手なことで有名です。卓越した描画力と豊かな色遣いで、創造性に富んだ絵を描きます。知性に溢れ、才能を余すところなく発揮しています。



5.2 エルサレム 子どもセンター

エルサレム子どもセンターは2010年を通してとても賑わいました。次の活動を実施しました。

1. 絵画クラス：5歳～14歳の子どもたち20人が参加。
2. 幼児向けバレエのクラス：3歳～6歳の子どもたち10人が参加。
3. 放課後プログラム：親が仕事を終えて帰宅するまでの間、安全な場を子どもたちに確保することを目的に開設。宿題のサポートもする。10人が参加。参加者は増え続けている。
4. 子どもたちのサマーキャンプ：5歳～13歳の子どもたち約60人が参加。

このほか、イースター、国際子どもデー、母の日、クリスマスなどにも、子どもたちのプログラムを実施しています。



6. 国際舞台への参加およびアドボカシー

パレスチナ YWCA 事務所の主な役割の一つは、占領下で抑圧されている女性と子どもや市民社会が直面している問題について人々の理解を促し、支援と連帯のネットワークを築くことです。パレスチナ YWCA は多くの国際フォーラムに参加するとともに、正義に基づく平和を訴えるコミュニティや地域のさまざまなネットワークに参加しています。

6.1 ディサイプル(十二使徒)女性総会: グリーンスボロ、アメリカ合衆国

ラマツラ YWCA 会長マハ・ランティッシは、パレスチナ YWCA 代表として6月21日～27日までノースカロライナ州のグリーンスボロでおこなわれたグローバル・ミニストリー(世界宣教)主催の4年に1度のディサイプル女性総会に参加しました。

この4年に1度開かれる、ディサイプル・オブ・クライスト(”キリストの使徒”の意味＝米国のプロテスタント教会の一派)とグローバル・ミニストリーに関わる女性たちの集まりは、50年にわたって女性たちを結集させてきた催しです。2010年度は14回目の開催となりました。国際的なゲストや各国宣教師も含めて、アメリカを始め世界中から何千人もの女性たちが参加しました。幸運にも私たちはそのような集まりにパレスチナ YWCA 代表として招かれました。

総会はワークショップ、フォーラム、礼拝、音楽、演劇、説教、スピーチなど盛りだくさんな内容でした。総会のテーマは「目覚めよ!」です。プレゼンテーションでは、パレスチナの状況、特に女性と子どもが直面している困難、私たち YWCA が女性たちの苦難を克服するためにどのように手を差し伸べているかなどが取り上げられました。このことから、パレスチナ YWCA によっておこなわれているアドボカシー活動や情報の共有化が重要であることが再確認できました。さらに、次のような認識も得ました。パートナーシップを築くことがいかに大切かということ、国際社会に対しパレスチナの大義を啓発し、平和と正義を求める私たちの闘いへの連帯を築くという、パレスチナ YWCA 事務所の役割の難しさなどです。

6.2 FOKUS(女性と開発のためのフォーラム)女性と平和と安全に関するネットワーク会議および女性・平和・安全に関する国連安保理決議第1325号(SCR1325)10周年記念週間: ボゴタ、コロンビア



ラマツラ YWCA 総幹事デージー・ラマンは、2010年11月6日～13日まで、コロンビアのボゴタで開催された上記会議に参加しました。会議の目的は、SCR1325 および後続決議(国連安保理決議第1820号:武力紛争下の性暴力防止に関する決議、第1888号:武力紛争下の性暴力根絶に向けた取り組みを促進する決議、第1889号:平和構築における女性の参加)の策定に関わったパートナーの間で共通理解を深めることでした。さらに、どのようにすれば FOKUS パートナーが多様なプロジェクトを通じて平和構築プロセスにおける女性の役割を拡大し、戦争における武器

としての性暴力を防止できるかを話し合うことも目的の一つでした。会議ではすべての参加者がお互いの体験から学び合えるようにフォーラムが設けられ、国と組織を越えて新しいパートナーシップを築く機会が与

えられました。女性がその権利を享受するにあたって最も重要な変化をもたらすものは、女性団体の作る文書でありアドボカシーであるというコンセプトが浮き彫りになりました。

デイジーは次のように述べています。「コロンビアのネットワーク会議と記念週間への参加はまさに啓発的な経験でした。特にサナム・アンデリーニ国際市民社会ネットワーク(ICSN)理事による『女性たちが発言していること』と題する研究に感銘を受けました。この研究は、和平プロセスに女性を参加させるために主要関係者がどのような努力をしてきたかを考察したものです。同研究は、紛争国における SCR1325 とそれに関連する活動の妥当性や影響について、紛争地域の女性たちの声と経験を描写して女性たちの置かれている状況が重大な局面にあることを提示しています。研究では女性を「平和の紡ぎ手」「変革の担い手」と表現しています。女性を巻き込み参加させること—女性が和平プロセスに出席し発言すること、そして実質的な話し合いに女性の視点や働きかけが活かされること—が、現実味のある持続的な平和を生み出すチャンスを高めるということを前提に発展された興味深い考え方です。この考え方が YWCA にとって特別の意味を持つのは、「変革の担い手である女性」は私たちの長年のスローガンでもあるからです」

6.3 コモン・グローバル・ミニストリー(共同世界宣教、CGM)年次理事会:アメリカ合衆国

ミラ・リゼック総幹事は中東およびヨーロッパ担当理事のピーター・マカリ牧師の指名により、2010年4月、パートナー関係にある国際メンバーの一員として、3年の任期でコモン・グローバル・ミニストリー理事会に加わりました。コモン・グローバル・ミニストリーは、ウィットネス・オブ・クリスチャン・チャーチの、ディサイプル・オブ・クライスト(“キリストの使徒”の意味=米国のプロテスタント教会の一派、海外宣教部門)と、米国基督教団(拡大宣教局)と協働しています。ミラが初めて出席した会合は2010年11月3日~6日、シェラトン・インディアナポリス・シティセンターホテルでおこなわれました。

理事会は2つの教会の合同なので、各教会の理事会がそれぞれ別々に最初の2日間会合を持ち、その後合同理事会であるコモン・グローバル・ミニストリーの理事会が開かれました。2つの理事会はそれぞれのアジェンダに従って議題を話し合い、監査役から監査報告を受け、それについて討議しました。そして3日目に、コモン・グローバル・ミニストリー理事会がそれぞれの報告で幕を開けました。次に2つの理事会の共同理事デービッド・ヴァーガス牧師(DOM)とカーリー・ロジャース・ウィッテ牧師(WCM)がこれまでの振り返り感想を述べました。その後、財務、長期計画、指名、人事および資源開発などの各委員会の報告がおこなわれました。夜は各国の牧師がそれぞれの経験を発表し、世界的な問題を理事会に再提示しました。「パレスチナ、イスラエルにおけるエキュメニカル同伴プログラム(EAPPI)」のボランティアとして2010年にパレスチナで活動したフェイ・バトリックがパレスチナの事例を発表しました。本会議では総幹事を含むすべてのパートナーが自己紹介と活動紹介の機会を与えられ、理事会のさまざまなセッションや委員会への参加をよびかけられました。礼拝の終了前に前任の理事会メンバーが紹介され謝辞を受けました。理事会は大変感動的な礼拝と聖餐式および任命式で締めくくられました。

6.4 パレスチナ YWCA 総幹事、サンフランシスコ地域 YWCA を訪問

ミラ・リゼック総幹事は2010年11月のアメリカ合衆国訪問の際に、カリフォルニア州ベイエリア(湾岸地域)YWCA 理事長ミュリエル・スマルハイザーの招きを受けて、ウォルナットクリーク・シェラトンで、パレスチナ状況およびイスラエル占領下で女性のエンパワメントを支援しているYWCAの役割についてスピーチをしました。この催しには、同地域の職員やボランティア、来館者、アメリカ在住パレスチナ人、ウォルナットクリーク元市長など多数が参加し、その後歓迎会がおこなわれました。今回の招待は、2009年9月のアメリカYWCA

代表団のパレスチナ訪問を引き継ぐものであり、「パレスチナ 証言の旅」の報告と勧告に対するフォローアップとして、コミュニティとYWCA 会員にパレスチナをめぐる課題の根本原因について啓発を促し、平和と正義への支援を世界運動の中で促進するためのものでした。

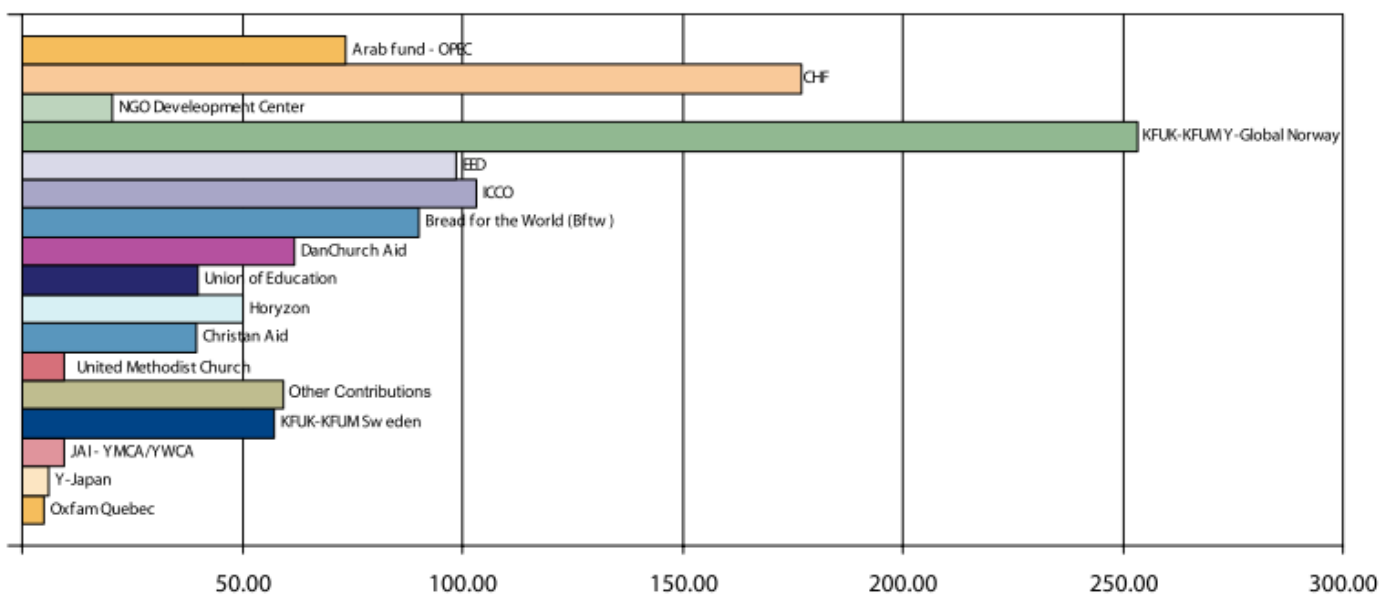
7. パレスチナ YWCA および地域 YWCA 会長

パレスチナ YWCA 会長 アブラ・ナシール
 エルサレム YWCA 会長 ミレイユ・グネイム
 ラマツラ YWCA 会長 マハ・ランティツシ
 エリコ YWCA 会長 エルマ・ダルビツシュ

8. 2010 年会計報告

2010 年に受け取った寄付者からの援助

(単位:1 千米ドル)

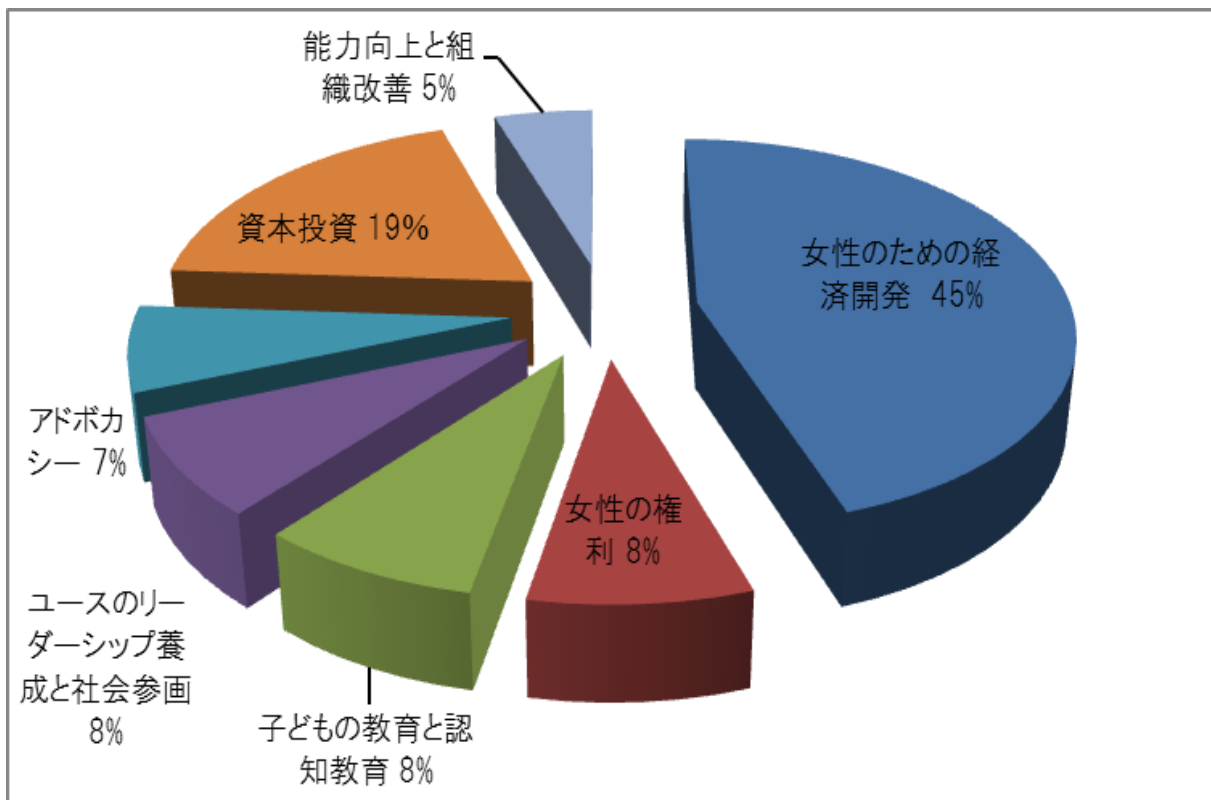


(上から)

- 石油輸出国機構アラブ・ファンド
- 一般人道基金(CHF)
- NGO 開発センター
- KFKUK-KFUM Y-グローバル (ノルウェー)
- ドイツ教会開発サービス(EED)
- ICCO(開発のためのキリスト教会の相互団体)
- ブレッド・フォー・ザ・ワールド(世界のためのパン)
- ダン・チャーチ・エイド
- 教育組合
- ホライゾン

クリスチャン・エイド
グローバル・ミニストリーズ
その他、キリスト教会の関連団体
KFUK-KFUM スウェーデン
JAI YMCA/YWCA 2009
日本 YWCA
オックスファム ケベック

パレスチナ YWCA 2010 年の部門ごとの支出







جمعية الشابات المسيحية فلسطين
التقرير السنوي ٢٠١٠



پالستينا YWCA 活動報告 2010 日本語版

翻訳協力 東京 YWCA 国際語学ボランティアズ ILV
(浅原由美、織戸亜弥、呉みどり、芝田貞子、長尾真知子、山高万寿子)

2012 年 3 月発行

編集・発行 日本 YWCA

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-8-11

東京 YWCA 会館 302 号室

TEL:03-3292-6121 FAX:03-3292-6122

E-mail:office-japan@ywca.or.jp